

日の出町第六次長期総合計画基本構想の検討

第3回審議会資料

令和7年8月25日

1. 基本構想の検討

1.1 基本的な考え方

- 将来像のキャッチフレーズは、町民と行政（町）の共通目標となるよう、どの世代にもわかりやすく、伝わりやすい表現とする。（「この状態を目指してみたい」と思える将来像）
- 「みんなでつくろう　日の出町」は、協働のまちづくりの理念（変わらないもの）として残す。（昭和55年に制定した町民憲章5か条の1「お互に手をとり助け合い、心の通う明るいまちにしよう」とも一致している。）
- 将来像の内容（本文）は、現在の魅力や強みを生かしつつ、未来を予測し、将来に向けてどのようなまちを目指すのかを示す。
- 「暮らしたくなるまち」がどのようなイメージか伝わるような「ロゴ」を作成する。

みんなでつくろう日の出町 「暮らしたくなるまち」の実現

町の歴史、時代の潮流・社会ニーズ、町の強み

日の出町はかつて、大久野村と平井村が合併してできた人口約8千人の「村」でした。東京都の発展とともに人口は増え、昭和49年に町制を施行し、令和6年に50周年を迎えました。この50年で人口は1.5倍となり、町は大きく成長しました。

しかし近年は、本格的な人口減少・少子高齢化が進行し、まちの活力の維持や安定的な行政サービスの提供に大きく影響を及ぼす重要な課題となっています。まちは大きな転換期にあり、人口減少社会においても活力を失わないまちづくりや、ともに支えあう地域づくりが求められています。

日の出町には、首都圏でありながら暮らしに豊かさと安らぎを与えてくれる「美しい自然」があり、このまちに誇りと愛着を持って暮らす温かい「人」がいます。

また、圏央道の開通や大型商業施設の開業などにより、生活の利便性は飛躍的に向上し、暮らしやすい住宅都市としての魅力を確立しつつあります。

町の将来展望（アウトカム）

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、変化の激しい時代にあっても、まちで暮らす人たちが変わらず支えあい助け合いながら暮らせる地域をつくるとともに、子育てや教育への支援を通して、若者や女性がより一層好きや得意を発揮できる環境を整備することで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。



第2回総合計画等審議会での意見を踏まえ、見直し案を作成する

（意見）

- ・ 基本構想文案について、「より一層好きや得意を発揮できる」を「より一層得意や好きを発揮できる」に変更した方がわかりやすく感じる。
- ・ 「若者や女性が」という表現もあるが、限定する必要はないのではないか。

みんなでつくろう日の出町
「暮らしたくなるまち」の実現

<原案>

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、変化の激しい時代にあっても、まちで暮らす人たちが変わらず支えあい助け合いながら暮らせる地域をつくるとともに、子育てや教育への支援を通して、若者や女性がより一層好きや得意を発揮できる環境を整備することで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。

<見直し案 1>

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、**年齢や性別、障がいの有無などにかかわらず、安心して人がつながり、支えあう地域をつくるとともに、若い世代からも選ばれるまちに向けた取組を進めることで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。**

<見直し案 2>

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、**年齢や性別、障がいの有無などにかかわらず、安心して人がつながり、支えあう地域をつくるとともに、若者や女性からも選ばれるまちに向けた取組を進めることで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。**

<見直し案 3>

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、変化の激しい時代にあっても、まちで暮らす人たちが変わらず支えあい助け合いながら暮らせる地域をつくるとともに、**若い世代がより一層得意や好きを発揮できる環境を整備することで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。**